

被災地熊本市・益城町の復興への思い 「いだてん」のまち玉名市の取組

品田ひでこ

益城町は被災後4か月後に最初に視察に参りました。その時は、活断層のずれた場所を視て、まち全体が壊れた家屋と瓦礫の散乱の姿でしたが、今回三年ぶりの視察で、着実に復旧復興されていることから、行政や市民・YMCA等の民間の並々ならぬ努力がそこにあったのだと実感し力強さに驚かされました。しかし、災害公営住宅の建設は進んでいるものの、経済的に仮設住宅に引き続き住むことを余儀なくされている方を思うと矛盾を感じます。まだまだ道半ばです。

また、熊本市民の心の寄りどころである熊本城の復興工事も着々と進んでいることも確認させて頂き、街の中はほぼ暮らしが安定している様でした。文京区と熊本市の歴史的文化の友好がますます盛んになり、市民レベルでの交流が一層進むことを祈ります。

「いだてん」大河ドラマのご縁で玉名市と相互協定が締結できてまた自治体間が結びつくことは喜ばしいことです。千載一遇のチャンスにより、玉名市の魅力と観光、地域活性化に急遽プロジェクトを組み事業展開し全国に発信されている議会や市の取組を学ばせて頂きました。

被災地の熊本市、益城町及び大河ドラから観光・地域活性に取り組むお手本となるべき有意義な視察でした。